

総務文教委員会

本委員会では、本市の環境教育の現状と課題について調査を行なって参りました。

■富良野市の環境教育

学校教育においては、学習指導要領に示されている各教科における環境関連の学習はもとより、学校農園の活用や総合的な学習の時間において地域の特色を活かしながら創意工夫した教育に努め、あわせて本市のごみ分別やりサイクルなど、環境施策に関連した学習にも取り組んでおります。

また、各学校とも外部の人材や関係機関との連携を図り学習の場を校外外に設け、自然環境への関わりを豊かにする取り組みが実践されています。

社会教育では、自然観察会、フォーラム、環境に関する講座、講演会、子ども自然塾などの事業を生涯学習センターを拠点として実施されております。

■進行する地球環境の悪化

地球温暖化の進行、食糧不足、近い将来に予測されている石油資源の枯渇など、地球環境は急速に悪化し、人類の生存環境が脅かされる事が懸念されております。本市は70%が森林で、農業が基幹産業という恵まれた自然環境にあります。森林は二酸化炭素の吸収や、水資源のかん養による耕地の保全など重要な機能を果たし、食糧はいつでも手の届くところにある事から、自然環境の悪化に対する危機意識は薄いのが現状です。

■温暖化をベースに環境教育

何のために環境教育を行なうのかという意義づけが必要で、地球規模での環境変動の学習により、人間は自然に生かされている事を体系的に理解する事が重要です。その事によって命の尊さ、モノの大切さ、人間と自然との共生などを学ぶ環境教育は、子ども達だけではなく全世界で重要であり、特に近年、問題となっている地球温暖化に関する教育機会の拡大が、一層必要という事で見解の一致を見た次第であります。

保健福祉委員会

■臨地実習の市内確保、学生の就学、学習環境の充実を

保健福祉委員会より、事務調査第6号「看護専門学校について」調査の経過と結果について報告致します。

看護専門学校は、平成6年4月に開校された。開校から本年度まで15年間の入学者数は549名であり、年度別の状況では入学定員割れの年度が多くなっている。定員割れの原因として、少子化に伴う18歳人口の減少や、他の看護師養成過程を持つ4年制大学との併願による入学辞退者が多いことが挙げられる。しかし、看護師国家試験は6度に渡り全員合格を達成したほか、平成11年度を除いて全国平均値を上回っている。

臨地実習を行う施設は、富良野協会病院をはじめ、市立芦別病院、市立赤平総合病院を実習基幹病院として位置づけ、臨地実習を行ってきたが、市立赤平総合病院は診療体制の変革に伴

い、同院での実習を廃止することとなった。

また、入学定員をこれまで40名から30名へ削減したことについては、臨地実習地廃止、実習地施設における病棟削減に伴い1学年40名の受入れが困難になったことがあげられる。



看護専門学校

委員会における意見交換では、入学定員削減はやむを得ない措置とするものの、今後において関係する職員を削減することなく、定員減により校舎スペースに余裕があれば、潜在看護師のための研修施設として利用できないのか等、数々の意見が出され、臨地実習の市内確保、学生の就学・学習環境の充実を求め委員会の報告と致します。